**第5回放射線と健康についての福島国際専門家会議**

**福島における甲状腺課題の解決に向けて～**

**チェルノブイリ30周年の教訓を福島原発事故5年に活かす**

１．日時・場所等

日時：2016年9月26日（月）～27日（火）

場所：ホテル・ザ・セレクトン福島（3階・安達太良）

 福島県福島市太田町１３−７３

言語：英語（同時通訳有り）

参加対象：専門家、医療関係者、行政関係者、一般等

事前登録制・入場無料

２．主催・共催・後援

　　主催：日本財団

共催：福島県立医科大学、長崎大学、笹川記念保健協力財団

後援：福島県（予定）、広島大学、日本医師会、日本看護協会、日本薬剤師会

３．会議の目的・背景

（１）目的

チェルノブイリ原発事故から30年、そして福島原発事故から５年が経過し、現在の福島での複雑な課題を甲状腺がんの問題に焦点を絞り、科学的エビデンスの検証から住民への対応の改善と今後の長期健康見守り事業の在り方へ助言貢献する。

（２）背景

　　　福島原発事故を受けて、甲状腺がんに対する不安から、福島全県下で、事故当時概ね18歳以下の子ども達約37万人を対象とした甲状腺超音波検査が行われている。その結果、過去５年間で100名を越す小児・青年期甲状腺癌が発見、手術をされている。一方では、大規模甲状腺超音波検査導入に伴うこの現状認識の違いが、不安を更に増悪させている。このため、甲状腺癌への正しい理解を専門家のみならず幅広く報道機関や住民とも共有することは重要である。その為の科学的エビデンスについては、過去の事例、特にチェルノブイリ原発事故後の教訓を生かし、今日的課題である福島甲状腺問題の解決に資する国際専門家会議を開催する。

参加者は、国内外の専門家、医療関係者、関連する学術関係者、さらに本問題に関心が高い報道関係者や福島県の住民を対象とし、チェルノブイリ甲状腺の専門家らの発表と、国際機関からの福島レポートを中心として、福島の状況を正しく把握し、課題解決に向けた提言をまとめる方向で２日間の議論を集約させる。本提言は、福島県民健康調査事業に資する形で活用されることが期待される。

４．プログラム

　　別紙のとおり

（以　上）